

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期	3	2	M, E, S, A, C, D : 選択
担当教員			
大鷹 紀信・山下 浩司・中村 英治			
添付ファイル			

講義概要	<p>企業は事業活動を営む際、必ず会計が関わっている。例えば、技術者が製品開発や製造の職務を遂行する上でも、財務会計や原価計算の知識は重要である。財務システムは、企業経営者自身や企業を取り巻く利害関係者に対して、このような会計情報を財務諸表などを通じて提供する役割を担っている。財務諸表の作成は、会計データを一定の方式によって、記録・計算・測定し、整理・集計する技術である簿記に基づいて行われる。</p> <p>本講義では、簿記上の取引から財務諸表の作成に至る一連の流れに沿って、財務システムの基本を説明する。さらに、企業で実際行われている原価計算や原価管理の事例を紹介し、企業活動において財務システムがどのような役割を果たしているかを説明する。</p> <p>この科目は、財務会計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。</p>
授業計画	<p>1 簿記の意義としくみ 1、財務システムのビジネス上の役割と簿記の意義の説明 2、貸借対照表 3、損益計算書 4、貸借対照表と損益計算書の関係</p> <p>課題：1) 財務諸表の種類と役割を理解する。 2) 企業が行う経済活動を記録する仕組みである「簿記」の意義を理解する</p> <p>復習 (30分)：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習：不要</p> <p>2 仕訳と転記 1、勘定 2、取引の意義と種類 3、取引の8要素と結合関係 4、仕訳と転記</p> <p>課題：1) 資産・負債・資本・収益・費用の意義を理解する。 2) 複式簿記による仕訳について理解する。</p> <p>復習 (30分)：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習 (15分)：次回講義内容について、教科書により予習する。</p> <p>3 仕訳帳と元帳 1、帳簿の種類 2、仕訳帳への記入 3、仕訳帳から総勘定元帳への転記</p> <p>課題：1) 日々の取引を起点に、仕訳帳・総勘定元帳が作成されるまでの流れを理解する。</p> <p>復習 (30分)：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習 (15分)：次回講義内容について、教科書により予習する。</p> <p>4 決算 1、決算の意義と手続 2、試算表の作成 3、帳簿の締切りと財務諸表の作成 4、決算手続と精算表</p> <p>課題：1) 決算の意義とその手法を理解する。</p> <p>復習 (30分)：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習 (15分)：次回講義内容について、教科書により予習する。</p> <p>5 諸取引の処理と決算 (その1) 1、現金と預金</p> <p>課題：1) 現金・預金の取引を、仕訳で記録する方法を理解する。 2) 小切手の仕組みを理解する。</p> <p>復習 (30分)：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習 (15分)：次回講義内容について、教科書により予習する。</p>

6	<p>諸取引の処理と決算（その2）</p> <p>1、商品売買 2、売掛金と買掛金</p> <p>課題：1）商品売買の取引を、仕訳で記録する方法を理解する。 2）売上原価・棚卸の会計上の意義を理解する。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習（15分）：次回講義内容について、教科書により予習する。</p>
7	<p>諸取引の処理と決算（その3）</p> <p>1、その他の債権・債務（前払金/前受金、貸付金/借入金、立替金/預り金） 2、手形</p> <p>課題：1）その他の債権・債務の取引を、仕訳で記録する方法を理解する。 2）手形の仕組みについて理解する。 3）当講義終了後、小テスト(提出課題)を課す。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習（15分）：次回講義内容について、教科書により予習する。</p>
8	<p>諸取引の処理と決算（その4）</p> <p>1、有価証券 2、固定資産</p> <p>課題：1）株式と社債の仕組みを理解する。 2）減価償却の意義と計算方法を理解する。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習（15分）：次回講義内容について、教科書により予習する。</p>
9	<p>諸取引の処理と決算（その5）</p> <p>1、貸倒損失と貸倒引当金 2、株式会社の設立 3、収益と費用</p> <p>課題：1）貸倒・貸倒引当金の意義と、これを仕訳で記録する方法を理解する。 2）見越し・繰延べの処理について、仕訳で記録する方法を理解する。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習（15分）：次回講義内容について、教科書により予習する。</p>
10	<p>決算と財務諸表（その1）</p> <p>1、決算と決算手続き 2、試算表・精算表の作成 3、財務諸表の作成</p> <p>課題：1）前回までの個別処理を基に、財務諸表が作成されるまでの流れを理解する。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習：不要</p>
11	<p>決算と財務諸表（その2）</p> <p>1、ワークブックを使って、決算手続きの演習を行う</p> <p>課題：1）演習により、前回までの総復習を行う。</p> <p>復習（30分）：講義内容に該当箇所について、ワークブックにより復習する。 予習：不要</p>
12	<p>工業会計の基本</p> <p>1、工業簿記の意義 2、原価計算</p> <p>課題：1）工業簿記・原価計算の役割を理解する。</p> <p>復習（30分）：講義内容について、各自ノート等にまとめる。 予習：不要</p>
13	<p>企業における原価計算・原価管理の事例（その1）</p> <p>実際の企業における原価計算・原価管理の事例として、製造業企業の事例を紹介する。【外部講師】 アクティブラーニングとして、学生との意見交換を行う。</p> <p>復習（30分）：講義内容について、各自ノート等にまとめる。 予習：不要</p>
14	<p>企業における原価計算・原価管理の事例（その2）</p> <p>実際の企業における原価計算・原価管理の事例として、ソフトウェア開発企業の事例を紹介する。【外部講師】 アクティブラーニングとして、学生との意見交換を行う。</p> <p>復習（30分）：講義内容について、各自ノート等にまとめる。 予習：不要</p>

	15 16	<p>企業における原価計算・原価管理の事例（その3） 実際の企業における原価計算・原価管理の事例として、流通・飲食業企業の事例を紹介する。 【外部講師】 アクティブラーニングとして、学生との意見交換を行う。</p> <p>復習（30分）：講義内容について、各自ノート等にまとめる。 予習：不要 定期試験 定期試験</p>
授業形態		<p>講義中心に進めることになるが、知識確認と定着を図るため適宜、演習問題を挿入する。この問題解答練習等により実力アップと定着を図る。</p> <p>アクティブラーニング：第13回講義、第14回講義、第15回講義回では、実際の経営者との会話をを行い、ビジネスセンスを養う。①：3回、②：0回、③：0回、④：0回、⑤：0回、⑥：0回</p>
達成目標		<p>①企業の行う簿記会計の基本を理解している。 ②日本商工会議所主催簿記検定試験3級合格レベルに達している。 ③企業の行う原価計算・原価管理の基本を理解している。</p>
評価方法・フィードバック		①期末テスト成績点80%に、②課題提出状況20%を加味して、総合評価する。 提出課題については、講評を講義内にて行う。
評価基準		<p>秀：90点以上（達成目標①・②・③達成レベル） 優：89～80点 良：79～70点 可：69～60点（達成目標②・③達成レベル） 不可：59点以下</p>
教科書・参考書		<p>教科書：渡辺裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義3級』中央経済社 同上『検定簿記ワークブック3級』中央経済社 参考書：渡辺裕亘・片山覚編著『段階式日商簿記ワークブック商業簿記2級』税務経理協会 岡本清・廣本敏郎編著『段階式日商簿記ワークブック工業簿記2級』税務経理協会</p>
履修条件		毎回の授業内容の理解がないと、新しい授業内容の理解が困難となる。授業時に指示する課題（ワークブック問題の解答指示等）は、復習として必ず実施すること。
履修上の注意		簿記会計は、記録・計算を繰り返し、反復練習が肝要である。したがって、手書き記入できるノートを用意し、筆記具、計算用具（電卓）を持参すること。また、ノートパソコンを持参し、整理と課題提出に備えると良い。
準備学習と課題の内容		準備学習（各回15分程度）：予定授業箇所について、教科書を一読して、授業に臨むこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）		知識・理解:30%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:20%, 態度:10%, 技能・表現:10%
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		

Ⅲ類（学科専門科目）

機械工学科